

ウェルビーイングの考え方、 政策研究の推進体制に関する海外事例(参考資料)

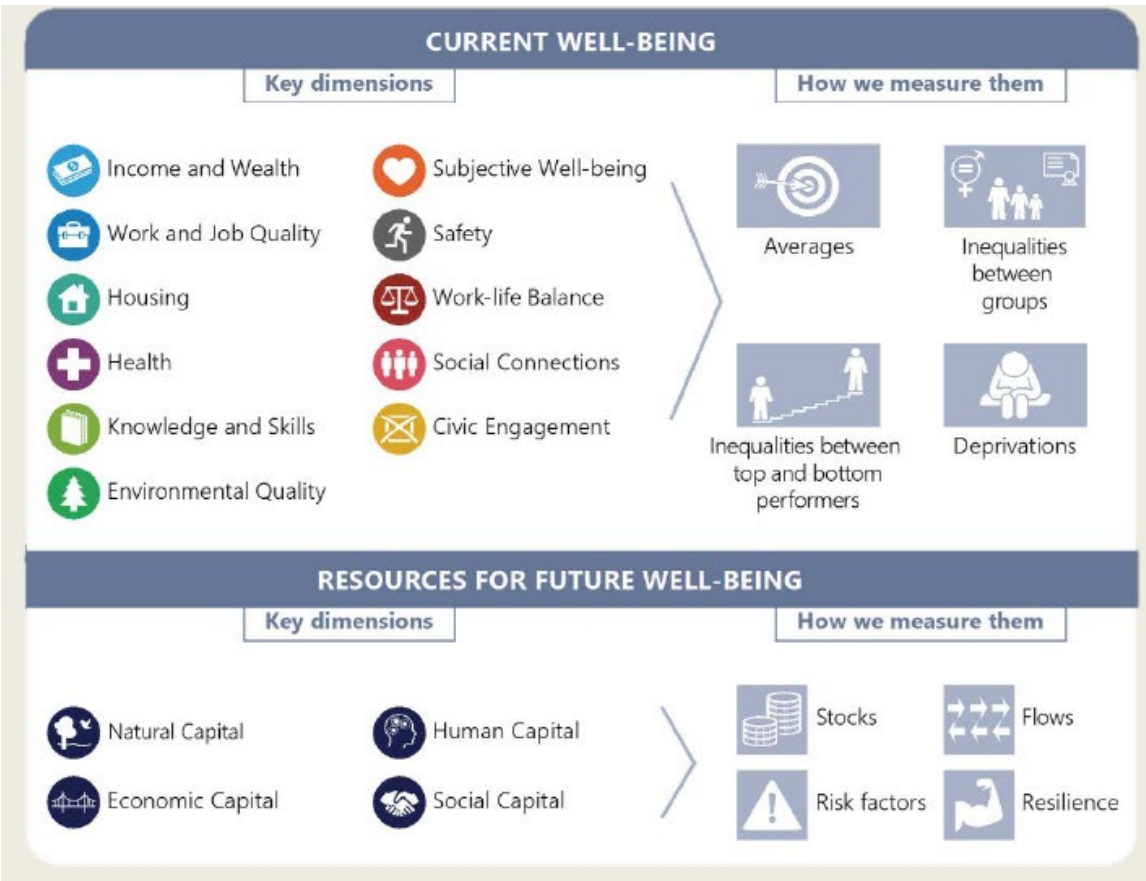
事例集

- ウェルビーイングの考え方の事例
 - ウェルビーイングの考え方の事例(OECD、内閣府)
 - こどものウェルビーイングの考え方の事例(OECD、UNICEF)
- ウェルビーイングを政策実装した事例
 - ウェルビーイングを政策実装した事例(ニュージーランド、フランス、韓国、富山県、東京都荒川区)
 - こどものウェルビーイング(ニュージーランド、イギリス)

ウェルビーイングの考え方の事例 1/2

- OECDでは、現在と未来のウェルビーイングを考慮した「より良い暮らし指標(BLI)」を作成し、各国の評価を行った結果を「How's Life?(幸福度白書)」で公表している。各国の平均値だけでなく不平等も評価し、国家間だけでなく国内での不平等(格差)についても重要視する。

図 OECDウェルビーイングフレームワーク



【政策実装の経緯と概要】

- OECDは、2013年公表のWell-being計測に関するガイドラインで、Well-beingを「自らの人生や経験に対する心理的反応についての、肯定的な評価も否定的な評価もすべてを含む、良好な精神状態」と定義した。
- 2011年に「Better Life Initiative(より良い暮らしイニシアチブ)」を開始し、「Better Life Index(BLI:より良い暮らし指標)」を作成。BLIをもとにOECD加盟国やパートナー国の評価・分析し、報告書「How's Life?(幸福度白書)」を公表。不定期(2~3年毎)に発刊され、最新版は第6版(2024年)。
- BLIは、「現在のウェルビーイング」と「未来のウェルビーイングの資源」で構成される。「現在のウェルビーイング」は平均値を表す指標と不平等(水平方向の不平等、垂直方向の不平等、はく奪)を表す指標で測定され、「未来のウェルビーイングの資源」は4つの資本(ストック、フロー、リスク因子、レジリエンス因子)で測定される。

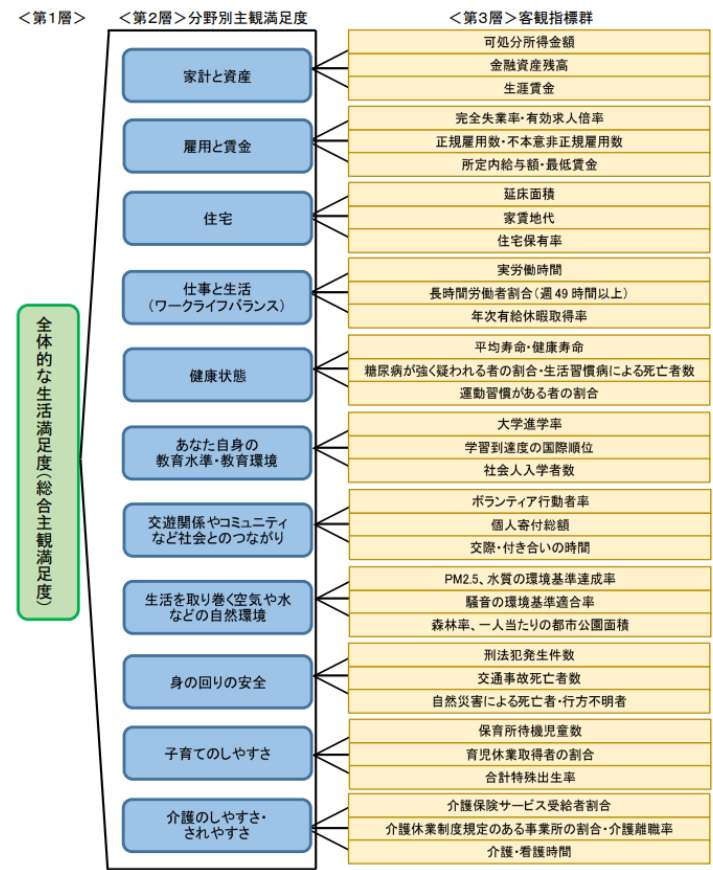
ウェルビーイングの分野	項目
現在のウェルビーイング	所得と富、住宅、雇用と仕事の質、健康状態、知識と技能、環境の質、主観的幸福、安全、ワーク・ライフ・バランス、社会とのつながり、市民参画[12のヘッドライン指標]
未来のウェルビーイングの資源	経済資本、自然資本、人的資本、社会資本[12のヘッドライン指標]

出所)OECD「How's Life? 2024」, OECD「OECD Guidelines on Measuring Subjective Well-being」(2013)

ウェルビーイングの考え方の事例 2/2

- 内閣府では、OECDのBLIをベースに、日本の重要課題に係る分野(子育て、介護)を加えた「満足度・生活の質に関する指標群(ダッシュボード)」を作成。主観満足度(総合、分野別)と客観指標群を対応付け、主観満足度を変動させる要因を分析しやすい構造とした。

図 満足度・生活の質を表す指標群(Well-being ダッシュボード)の体系図



【政策実装の経緯と概要】

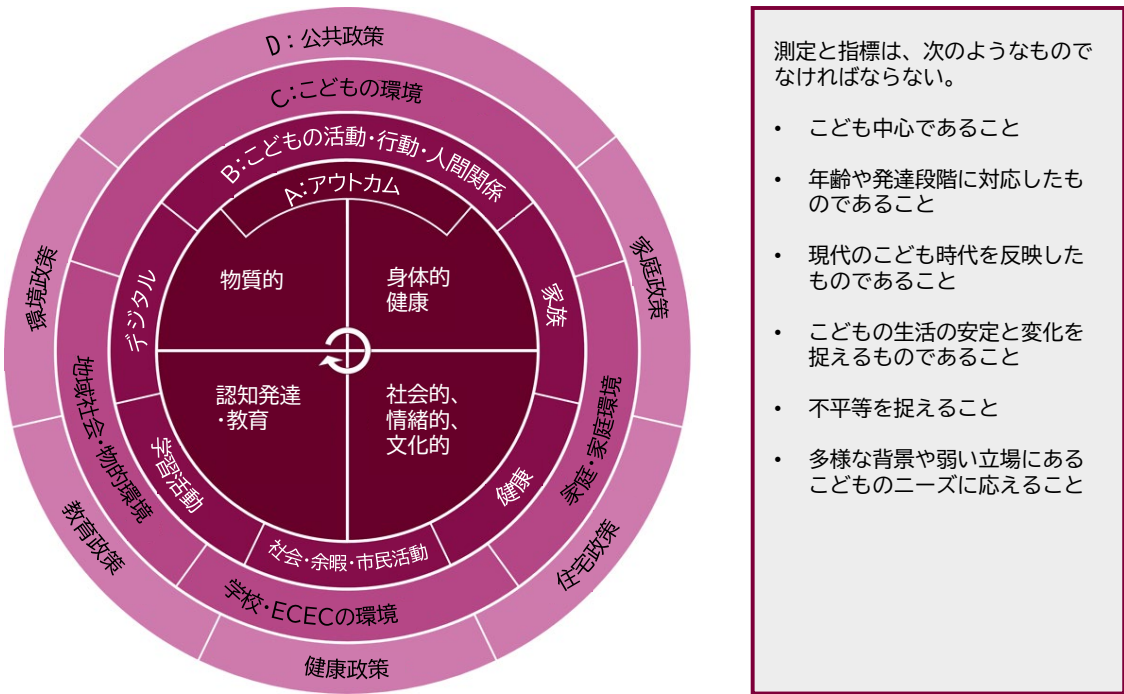
- 2017年の「経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)」に「人々の幸福感・効用など社会の豊かさや生活の質(QOL)を表す指標群(ダッシュボード)の作成に向けて検討を行い、政策立案への活用を目指す」ことが記載されたことを受け、内閣府が「満足度・生活の質に関する指標群(ダッシュボード)」を作成。アンケートの結果から指標群に基づき分析した結果を「満足度・生活の質に関する調査報告書」で毎年公表している。
- 指標群は、OECDのBLIをベースに検討され、日本の重要課題に係る分野(子育て、介護)も要素として加えられる。
- 指標群は、全体的な生活満足度を表す「総合主観満足度」、生活分野別の「分野別主観満足度」、分野別主観満足度と関係性が深い「客観指標群」という三層構造。各層が紐付けられ、総合主観満足度の増減の要因等进行分析できるようになっている。

ウェルビーイングの分野	項目
総合主観満足度	全体的な生活満足度
分野別主観満足度	家計と資産、雇用と賃金、住宅、仕事と生活(ワークライフバランス)、健康状態、教育水準・教育環境、交友関係やコミュニティなど社会のつながり、生活を取り巻く空気や水などの自然環境、身の回りの安全、子育てのしやすさ、介護のしやすさ・されやすさ

こどものウェルビーイングの考え方の事例 1/2

- OECDでは、こどものウェルビーイングに関して国際的に比較可能とするために、データを整備し、指標群を公表している。フレームワークでは、こども自身を中心として、人間関係や家庭・学校環境、公共政策等の要素が多層的に構成され、相互に関連し影響し合うものとしている。

図 OECDこどものウェルビーイング測定の概念的フレームワーク



【政策実装の経緯と概要】

- 2021年、「より良いこどものウェルビーイング政策の策定に情報を提供するために、こどものデータ・アジェンダを推進すること」を目的としてレポートを公表。レポートには、「OECD こどものウェルビーイング測定の概念的フレームワーク」が掲載されている。なお、フレームワークと併せて、指標群である「OECDこどものウェルビーイングデータセット」を掲載。
- フレームワークは、成長や発達等のこども自身(アウトカム)を中心として、こどもの活動・行動や人間関係、家庭や学校環境、公共政策がこどもを取り巻くように多層的に構成され、こども自身に対して相互に関連し互いに影響を及ぼすものとしている。

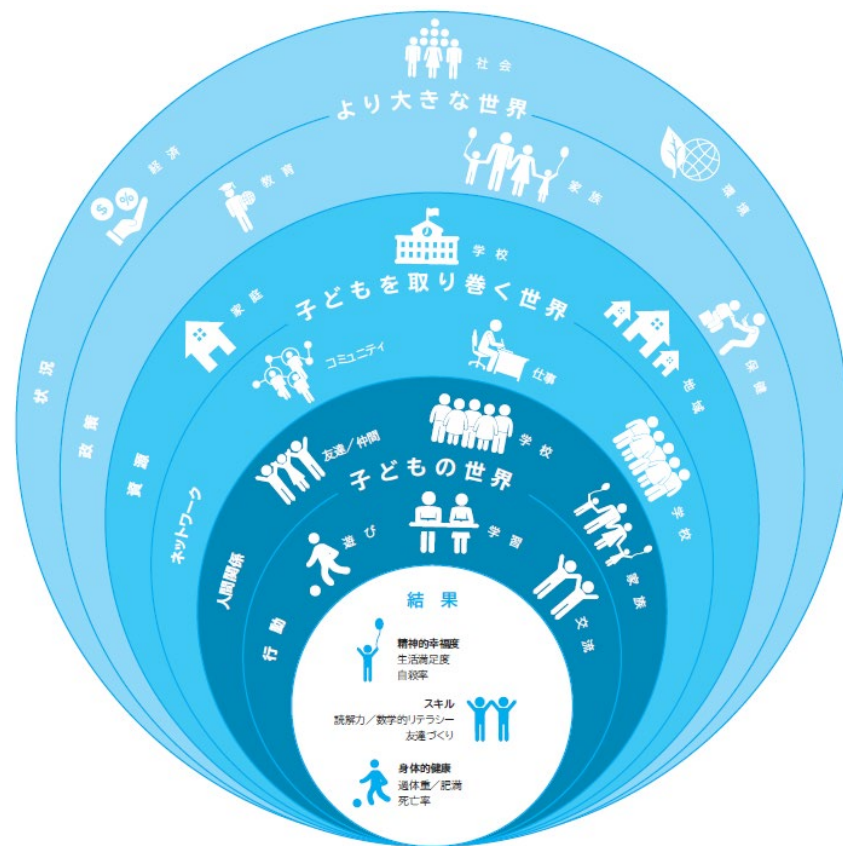
ウェルビーイングの分野	項目
こどものウェルビーイングのアウトカム	物質的アウトカム、身体的健康アウトカム、社会的、情緒的、文化的アウトカム、認知発達・教育アウトカム
こどもの活動、行動、人間関係	家庭活動・人間関係、健康行動、社会活動・余暇活動・市民活動及び人間関係、学習活動・態度・行動及び人間関係、デジタル活動・行動
こどもの環境	家庭・家庭環境、学校・ECECの環境、地域社会・物的環境
公共政策	家族政策、住宅政策、健康政策、教育政策、環境政策

出所)こども家庭庁(2023)「諸外国等におけるこどものウェルビーイングの概念と測定方法に関する調査」

こどものウェルビーイングの考え方の事例 2/2

- UNICEFでは、こどもの幸福度は、こどもを中心に、こどもが直接経験することから、家庭や周囲の人のつながり等のこどもが直接経験しないことを含め、直接的・間接的に影響を与えるとする多層的・多面的な枠組みで捉えている。

図 こどもの幸福度の多層的な分析枠組み



【政策実装の経緯と概要】

- ユニセフ・イノチェンティ研究所は、こども(のウェルビーイング)に関する研究の結果を、レポートカードという報告書で公表している。
- レポートカード16では、「良い子ども時代とは、子どもがポジティブな子ども時代の経験と、将来への前向きな見通しを持っていること」と捉え、「こどもの幸福度は、子ども自身の行動や人間関係、保護者のネットワークや資源、そして公共政策や国の状況によって影響を受ける」とする多層的・多面的なモデルを使って分析している。
- 枠組みでは、こどもは円の中心にあり、こどもの幸福度は結果として、こどもが直接経験する行動や人間関係等の「こどもの世界」、こどもが直接経験しない、家庭の経済状況やこどもの周りの人々の間のつながり等の「子どもを取り巻く世界」、社会政策や子供に関する政策等の「より大きな世界」という構成になっている。

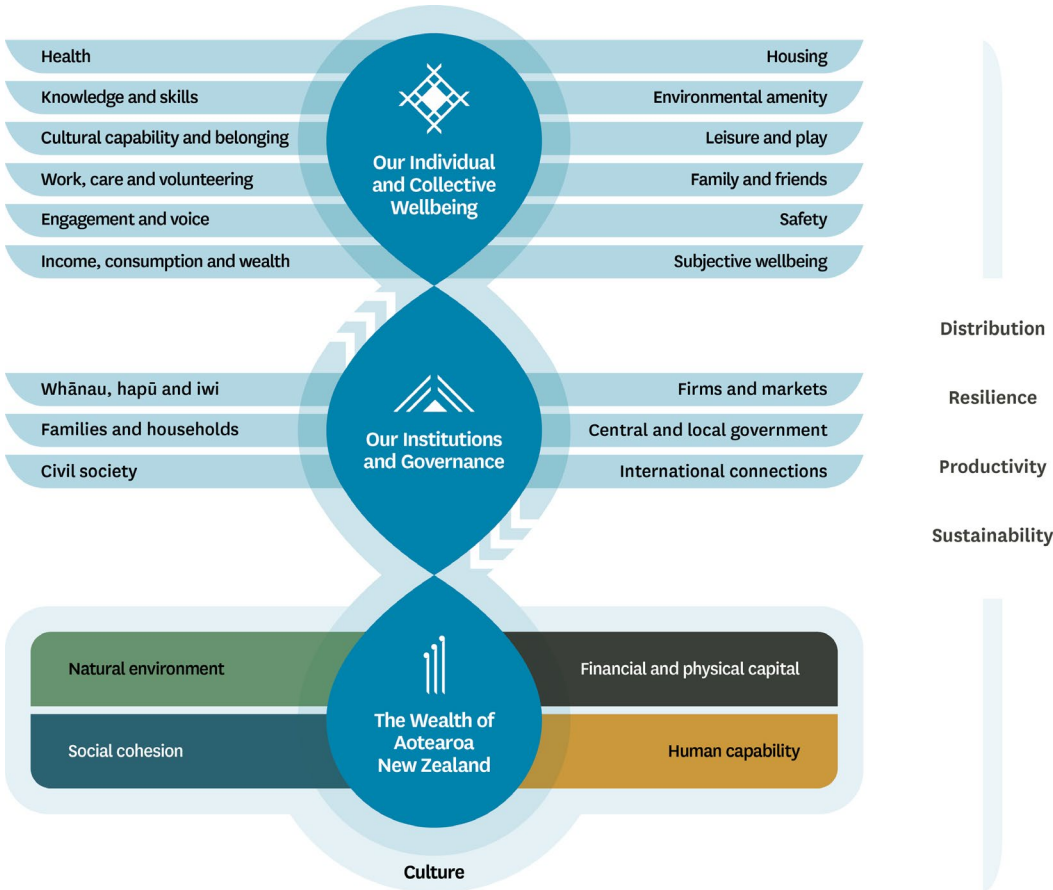
ウェルビーイングの分野	項目
こどもの幸福度(結果)	精神的幸福度、身体的健康、スキル
こどもの世界	行動(遊び、デジタル)、人間関係(家族、仲間、学校)
子どもを取り巻く世界	ネットワーク(保護者とコミュニティ、保護者と職場、保護者と学校)、資源(家庭の資源、近隣の資源)
より大きな世界	政策(社会、教育、健康)、状況(経済、社会、環境)

出所)UNICEF(2020)「イノチェンティレポートカード16 子どもたちに影響する世界:先進国のこどもの幸福度を形作るものは何か」

ウェルビーイングを政策実装した事例 1/5

- ニュージーランドでは、国民のウェルビーイングを体系立て、世界に先駆けてウェルビーイングに係る政府予算を編成。財政法にてウェルビーイングに係るレポートの作成を義務付け、先住民族の伝統に由来したウェルビーイングに関する枠組みを併用する等、政策提言とその改良を図っている。

図 The Life Standards Framework(LSF、2021年版)



【政策実装の経緯と概要】

- ・ ニュージーランド財務省は、より高い生活水準というビジョンとそのためにより広範な要因を認識する必要、国際的動向等の背景から、2011年にウェルビーイング指標の体系(LSF)を公表。以降も改訂を続けている。
- ・ 財政法(2020年改正)では、ウェルビーイングに係る単独のレポートを4年に1回作成することが義務付けられた。
- ・ 先住民族であるマオリの伝統に由来した包括的なウェルビーイングの枠組み「He Ara Waiora」(ヘ・アラ・ワイオラ)も活用される。
- ・ 2019～2023年の政府予算を「The Wellbeing Budget」と名付け、世界に先駆けてウェルビーイングを体系立てて政策に反映。

ウェルビーイングの分野	項目
個人と集団の幸福	健康、知識と技能、文化的能力力と帰属、収入・消費・富、住居、安全性、主観的幸福度、等 [12分野62指標＋分野横断的分析]
制度と統治	マオリ政策、家族と世帯、市民社会、企業と市場、中央政府・地方政府、国際関係 [6領域18指標]
アオテアロア・ニュージーランドの富	文化、自然環境、社会的なつながり、金融資本と物的資本、人間の力 [4側面23指標]
(4つの視点)	分配、回復力、生産性、持続可能性

ウェルビーイングを政策実装した事例 2/5

- フランスでは、大統領によりウェルビーイング測定に関する委員会が設置され、翌年公表された報告書が国際的なウェルビーイング活用の動きへと広がった。法律では、ウェルビーイング指標群で評価した国内の動向や政策による影響の見通しを、報告書として議会へ提出するよう定めている。

図 Les nouveaux indicateurs de richesse
(New Wealth Indicator, NWI)

	10 指標(2021 年版)	類型
経済面	就業率	現在
	R&D 投資(GDP 比)	将来
	部門別債務比率(GDP 比)	将来
社会面	健康寿命	現在
	生活満足度	現在
	所得格差	現在
	生活環境の貧困率	現在
	学校制度からの早期退出率	現在
環境面	温室効果ガス排出量	『他の地域』
	人工土壌の比率	将来

(出所) INSEE より作成。斜字は主観的な満足度や感じ方を聞く事項。

【政策実装の経緯と概要】

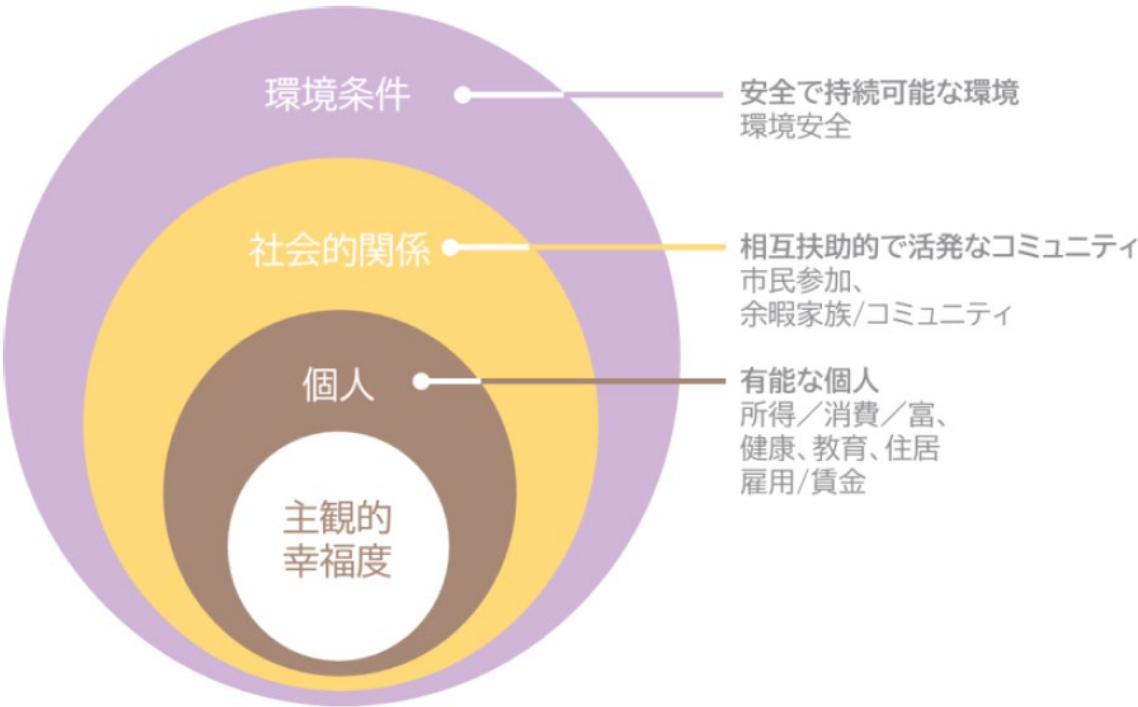
- 2008年にサルコジ大統領が設置した委員会(CMEPSP)がいわゆる「スティグリッツ報告書」を翌年公表し、ウェルビーイングに係る国際機関や各国の取組へ広がった。報告書の一部を再構成して公表された文献が「Mismeasuring Our Lives: Why GDP Doesn't Add Up」と題される等、現在の経済システムやGDPによる評価だけでは持続可能な生活に必要な情報は得られないこと等が訴求されている。
- 2015年に成立した法律(2021年改正)により、政府はNWIに関する年次報告書を議会に提出することが義務付けられた。内容は、NWIの過去数年間における推移等、定性的・定量的な評価とされ、議会で報告書について議論する可能性も明記される。
- NWIの指標は、首相直属の諮問機関(フランス・ストラテジー)や評議会(CE SE)、専門家や一般市民との幅広い協議を経て、簡潔性や読みやすさ、持続可能性を念頭に選定された。
- NWIは、予算編成プロセスや一部の政策評価(アカウンタビリティ確保)に利用される段階にはあるが、ウェルビーイングの指標数や体系化が比較的限定的であり、政策立案のベースとされる段階には至っていないと推察される。

出所) 松下「ウェルビーイング指標の政策活用: 海外事例と日本への示唆」、一橋大学経済研究所世代間問題研究機構、CIS Discussion paper series, No. 699、2023。
(フランス国立経済統計研究所(INSEE) "Indicateurs de richesse nationale" (Indicators of national wealth)
(<https://www.insee.fr/fr/statistiques/3281635?sommaire=3281778#documentation-sommaire>) (閲覧日: 2025/5/30))

ウェルビーイングを政策実装した事例 3/5

- 韓国では、生活満足度の低下や少子化、自殺率急増といった社会問題を背景に、生活の質を向上させるという全省庁共通の目標を掲げている。OECDのBLIを踏まえた、生活の質に関するフレームワークを活用、情報を公表しており、枠組みと政策への反映に向けた取組を進めている。

図 Quality of Life Indicators in Korea 2023
(KQoL、生活の質に関する指標)



【政策実装の経緯と概要】

- KQoLの作成は、2011年頃から統計庁が主導。背景には、低い出生率や高い自殺率、生活満足度の低下等の社会問題がある。
- OECDのBLIフレームワークを踏まえ、感情や将来のウェルビーイングに関連する指標も含む包括的な枠組みとなっている。2017年より”Quality of Life Indicators”のレポートが公表される。
- 生活の質を向上させるという全省庁共通の目標が掲げられている。韓国国会では2023年3月に、GNH(Gross National Happiness)促進法が提案され、GDPからのパラダイムシフトを目指している。
- 年齢層や地域といった区分で枠組みを細分化し、より適切なモニタリングと政策への反映を行うことも検討されている。

部門	分野
主観的幸福度	—
個人	所得-消費-富、健康、教育、住宅、雇用-賃金
社会的関係	市民参加、余暇、家族-地域社会
環境条件	環境、安全性

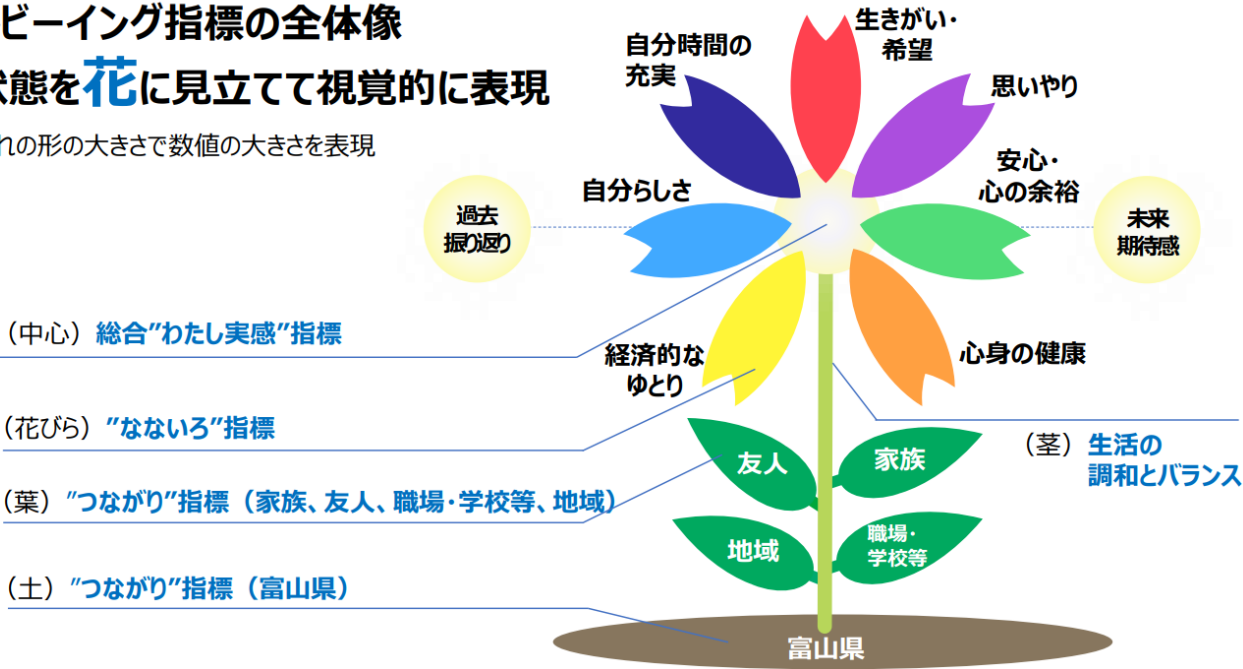
出所)総務省「複数領域統合型世帯調査に関する調査研究(アジアの事例を参考にした社会統計整備の検討)の請負報告書」、令和6年度統計委員会担当室委託研究、2025.3
(大韓民国統計庁 統計調査研究所(2023) ”Quality of Life Indicators in Korea 2023”、p.11 より作成。)

ウェルビーイングを政策実装した事例 4/5

- 富山県では、成長戦略にウェルビーイングを取り入れ、「ウェルビーイング推進課」が庁内横断的にウェルビーイング政策を推進する。令和4年度には、ウェルビーイング予算を編成し、各部局から集まった職員でウェルビーイングに関するテーマから具体的な事業の企画・立案・予算要求を行った。

図 富山ウェルビーイング指標の体系

ウェルビーイング指標の全体像
 ……状態を**花**に見立てて視覚的に表現
 ※それぞれの形の大きさを数値の大きさを表現



出所）富山県「富山県ウェルビーイング指標の策定について」

【政策実装の経緯と概要】

- 令和4年度、「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～」をビジョンとした「富山成長戦略」を策定。戦略の中核となる6つの柱の一つとして「真の幸せ(ウェルビーイング)戦略」を位置付ける。
- 令和4年度に「ウェルビーイング推進課」を新設。庁内横断的にウェルビーイング政策を推進する中心的な役割を担う。令和6年度にはウェルビーイング予算を編成し、各部局横断的に14部局等23テーマから事業の企画・立案・予算要求を行った。
- 令和5年度には「富山ウェルビーイング指標」を公表。県民の理解向上のため、個人のウェルビーイングを診断するサイトを公開している。

ウェルビーイングの分野	項目
総合実感	ウェルビーイング“総合わたし”実感(現在)、ウェルビーイング“わたし振り返り”実感(過去)、ウェルビーイング“未来のわたし”期待感(未来)
分野別(なないろ指標)	心身の健康実感、経済的なゆとり実感、安心・心の余裕実感、自分らしさ実感、自分時間の充実実感、生きがい・希望実感、思いやり実感
つながり指標	家族、友人、職場・学校等、地域、富山県

ウェルビーイングを政策実装した事例 5/5

- 東京都荒川区では、基本構想と合わせた分野と幸福実感から構成される指標「荒川区民総幸福度（GAH）」を作成。荒川区自治総合研究所を設立し、区職員と外部の専門家で研究を進め、GAHに基づいた分析を行った研究レポート等を公表している。

図 荒川区民総幸福度(GAH)指標の体系

		分野	上位指標(※1)	下位指標(※2)
荒川区民総幸福度(GAH)指標	幸福実感	健康・福祉	健康の実感	体の健康
				運動の実施 健康的な食生活 体の休息
				心の健康
				つながり★(※3) 自分の役割 心の安らぎ 医療の充実 福祉の充実
		子育て・教育	子どもの成長の実感 ¹	「生きる力」
				規則正しい生活習慣 「生きる力」の習得 親子コミュニケーション 家族関係 家族の理解・協力
				子育て・教育環境 子育て・教育環境の充実 地域の子育てへの理解・協力 望む子育てができる環境の充実
		産業	生活のゆとり	仕事
				生活の安定★ ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがい まちの産業
		環境	生活環境の充実	地域経済
				買い物の利便性 まちの魅力
				施設のバリアフリー 心のバリアフリー 交通利便性 まちなみの良さ 周辺環境の快適さ★
		文化	充実した余暇・文化活動、 地域の人とのふれあいの 実感	快適性
				持続可能性
		安全・安心	安全・安心の実感	余暇活動
				興味・関心事への取組 生涯学習環境の充実 地域への愛着
				地域文化
				地域の人との交流の充実 地域に頼れる人がいる実感 文化的寛容性

【政策実装の経緯と概要】

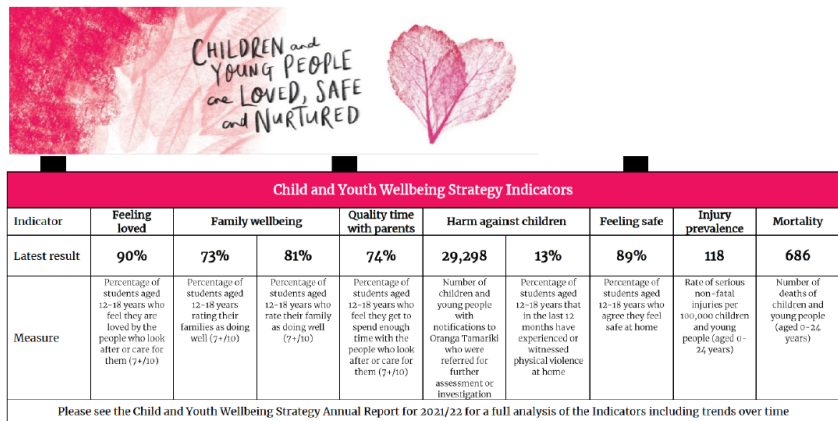
- 2004年「区政は区民を幸せにするシステムである」という事業領域を定め、2005年に「荒川区民総幸福度(GAH: Gross Arakawa Happiness)」を導入。指標を用いて区民の幸福実感の向上を目指す。
- 区職員によるプロジェクトチームを設定し、2009年からは荒川区自治総合研究所を設立(2011年に公益法人化)。各部署の職員と外部から招聘した専門家による構成で、現場感覚と専門性を反映した研究を進める。
- 2011年、基本構想に掲げる都市像と合わせた6つの分野及び幸福実感度で構成する指標が完成。2013年度から区民アンケート調査を実施し、GAHに基づいた分析が実施され、研究レポートが公開されている。

ウェルビーイングの分野	項目
健康・福祉[9指標]	健康の実感、体の健康、心の健康、健康環境
子育て・教育[8指標]	子どもの成長の実感、「生きる力」、家族関係、子育て教育環境
産業[7指標]	生活のゆとり、仕事、地域経済
環境[7指標]	生活環境の充実、利便性・ユニバーサルデザイン、快適性、持続可能性
文化[7指標]	充実した余暇・文化活動、地域の人とのふれあいの実感、世系 同、地域文化
安全安心[7指標]	安全・安心の実感、犯罪、事故、災害

こどものウェルビーイングを政策実装した事例 1/2

- ニュージーランドでは、こどもの意見を中心とし、脆弱なこどもへのケアを行うことを目的にオランガ・タマリキ法を制定、アウトカムと指標が整備された。現状評価は行われているが、レポートの廃止や実施主体の変更等もあり、今後の政策評価・実装との関係性が注目される。

図 ニュージーランドのモニタリングレポートの一例



“REALLY, JUST PEOPLE WHO REALLY BELIEVE IN YOU IS THE MOST ESSENTIAL THING TO HAVING A GOOD LIFE. AND PEOPLE WHO SUPPORT YOU NO MATTER WHAT.”

【政策実装の経緯と概要】

- こどもの意見が中心になっておらず、脆弱なこども(有色人種や障害のあるこども)へのケアが不十分という課題を背景に、2017年にオランガ・タマリキ法が制定された。ウェルビーイングの定義は「福祉を含むウェルビーイング」と定められ、切れ目なく重なり合う法域によってこどものウェルビーイングを保障としている。
- 2019年には「こども・若者のウェルビーイング戦略」が策定、アウトカムと指標が整備された。6つのアウトカムは、色に分けて表現されている。
- 年次報告書添付のモニタリングレポートでは、指標と結果をアウトカム別に示し、現行の行動計画の成果および次のステップを整理していた。ただし、モニタリングレポートは2024年10月に廃止となり、実施主体も変更になったため、今後のウェルビーイング指標と政策評価・実装の関係性が注目される。

ウェルビーイングの分野(アウトカム)	項目
① こども・若者が愛され安全に育まれる	愛されていると感じるか、安心感、家族・親族のウェルビーイング、怪我の発症率、こどもに対する危害、両親との充実した時間
② こども・若者に必要なものを手に入れる	物質的ウェルビーイング、こどもの貧困:物質的困難さ、こどもの貧困:低所得(BHC50)、こどもの貧困:低所得(AHC50)、食糧不足、住宅品質、住宅価格
③ こども・若者は幸せで健康である	出産前ケア、出産前の有害物質の暴露、主観的な健康状態、回避可能な入院、精神的ウェルビーイング、自傷・自殺行為
④ こども・若者が学び、成長している	早期教育への参加、定期的な通学、識字能力、計算能力、科学のスキル、社会的感情のスキル、自己管理能力、若者の雇用・教育・訓練への参加
⑤ こども・若者が受け入れられ、尊敬され、つながっている	「ありのままの自分であること」の能力、帰属意識、差別の経験、いじめの経験、社会的支援、文化的アイデンティティ、言語
⑥ こども・若者が参加し、権限を与えられる	地域社会との関わり、若者の声の代表、好ましい選択、犯罪行為

出所) Department of Prime Minister and Cabinet (DPMC), “Briefing: Child and Youth Wellbeing Implementation Monitoring Report for 2022”, (<https://www.msd.govt.nz/documents/about-msd-and-our-work/child-youth-wellbeing/reports/proactive-release-implementation-monitoring-report-2022.pdf>: pp.14-16 2025年5月27日取得)を引用

注) マオリ語で「オランガ」は「ウェルビーイング」を、「タマリキ」は「こども」を意味する。

こどものウェルビーイングを政策実装した事例 2/2

- イギリスでは、政策立案者が国民の重視する事項を把握することを目的とした「国家ウェルビーイング測定プログラム」にて、「英国ウェルビーイング測定のダッシュボード」が開発された。データセットは、こどもとおとなの指標で連続性があることを特徴とする。

図 こども・若者・個人の指標例

分野 (Domain)	項目	こども (0-15歳)	若者 (16-24歳)	個人 (16歳以上)
① 個人の ウェルビーイング	生活満足度	生活満足度	生活満足度	生活満足度
	やりがい・生きがい	自分のしていることに価値があると感じるか	自分のしていることに価値があると感じるか	自分のしていることに価値があると感じるか
	幸福度	幸福度	昨日の幸福度	昨日の幸福度
	外見への幸福度	自分の外見への幸福度	—	—
	不安感	—	昨日の不安感	昨日の不安感
	精神的ウェルビーイング	—	肯定的な精神的ウェルビーイング	—
	将来への希望	—	—	将来への希望があるか
	社会からの不当な扱い	—	—	社会からの不当な扱いを受けていると感じるか

【政策実装の経緯と概要】

- 2010年、個人、コミュニティ、国家としての現状と将来の持続可能性を包括的に示すことを目的に、「国家ウェルビーイング測定プログラム」が開始し、「英国ウェルビーイング測定のダッシュボード」が開発された。
- このプログラムは、国民が何を重視しているか政策立案者が考えるための新たな方法を提供し、収集した豊富なデータを活用し、政策への影響を理解することに重点をおくことを目的とする。
- ウェルビーイング測定のデータセットは、こども、若者、個人の三種類。いずれも共通の分野であり、分野内の指標の数や内容が異なっているものの、「こども」として独立して扱うのではなく、「おとな」の指標と連続性があるところが特徴である。

名称	指標数	大項目・分野の名称	対象年齢
こどものウェルビーイング	7分野 31指標	① 個人のウェルビーイング ② 人間関係 ③ 健康状態 ④ 活動 ⑤ 暮らしている場所 ⑥ 家計 ⑦ 教育・スキル	0-15歳
若者のウェルビーイング	7分野 28指標		16-24歳
個人のウェルビーイング	10分野 57指標	⑧ 経済 ⑨ 政府 ⑩ 環境	16歳以上

出所) こども家庭庁「諸外国等におけるこどものウェルビーイングの概念と測定方法に関する調査」, 2024年3月, (https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/d0d674d3-bf0a-4552-847c-e9af2c596d4e/0f75a78e/20250416_policies_kodomo-research_03.pdf, 2025年6月6日取得)。

未来を問い続け、変革を先駆ける

MRI エム・アール・アイリサーチアソシエイツ